

情報共有ツールとしての 「薬剤適正使用のための施設間情報連絡書」



東名古屋病院 薬剤部

2018年1月作成

地域医療における情報共有

患者様の療養環境が変化しても、医療の継続・一貫性をはかるため、医療機関間での情報共有が重要です。

情報共有

「医師」 診療情報提供書 → 治療方針・病態

「看護師」 看護サマリー → 看護・ケア



病院薬剤師と薬局薬剤師の情報共有

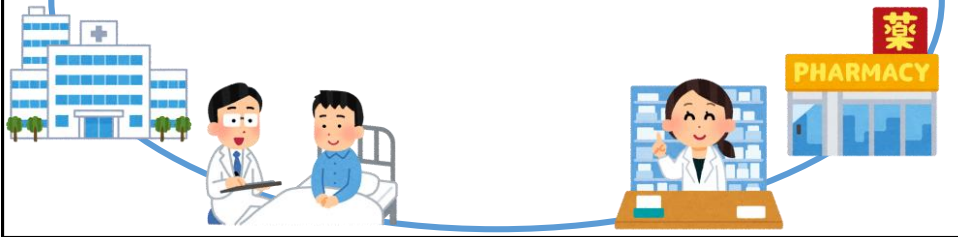
高度かつ複雑化している医療の中で、薬剤師間で情報を共有することが重要となっています。

情報共有

「病院薬剤師」と「薬局薬剤師」

情報共有ツール

「薬剤適正使用のための施設間情報連絡書」



「薬剤師」から「患者様」への服薬指導

患者様への服薬指導にはお薬手帳やお薬の説明書が使用されます。



「病院薬剤師」と「薬局薬剤師」間の情報共有ツール

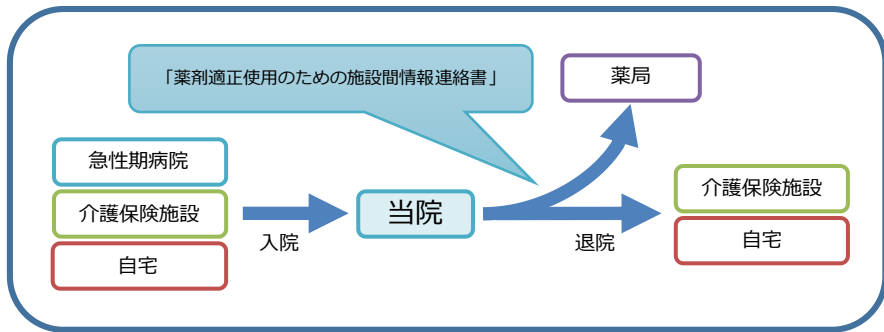
連絡書は患者様への情報提供を目的とするのではなく、薬剤師間で情報を共有するために使用します。



当院では…

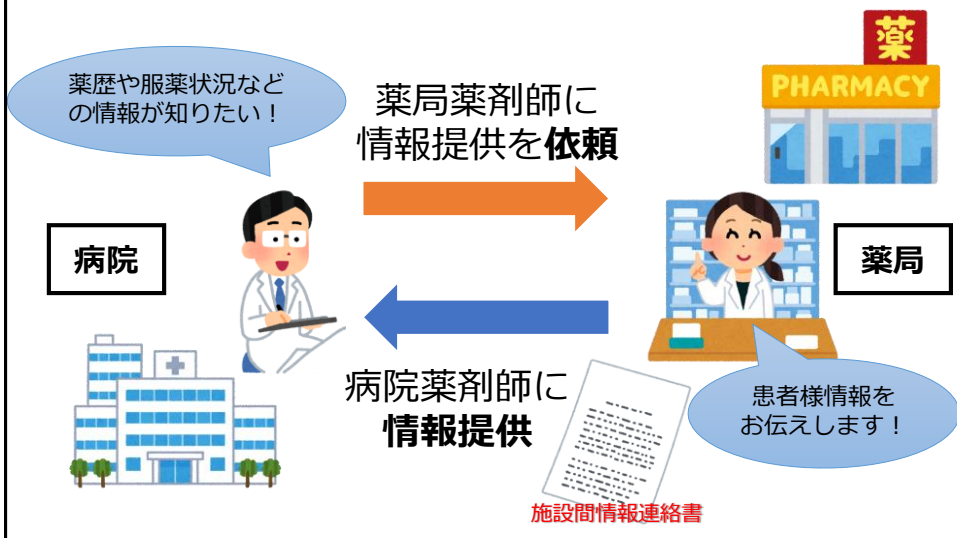
当院から退院し療養環境が変化する患者様に対し、今後も継続して適切な薬物療法を受けられるよう、担当薬剤師が必要と判断した場合に「薬剤適正使用のための施設間情報連絡書」を発行する取り組みを行っています。

「薬剤適正使用のための施設間情報連絡書」の発行→受領の流れ



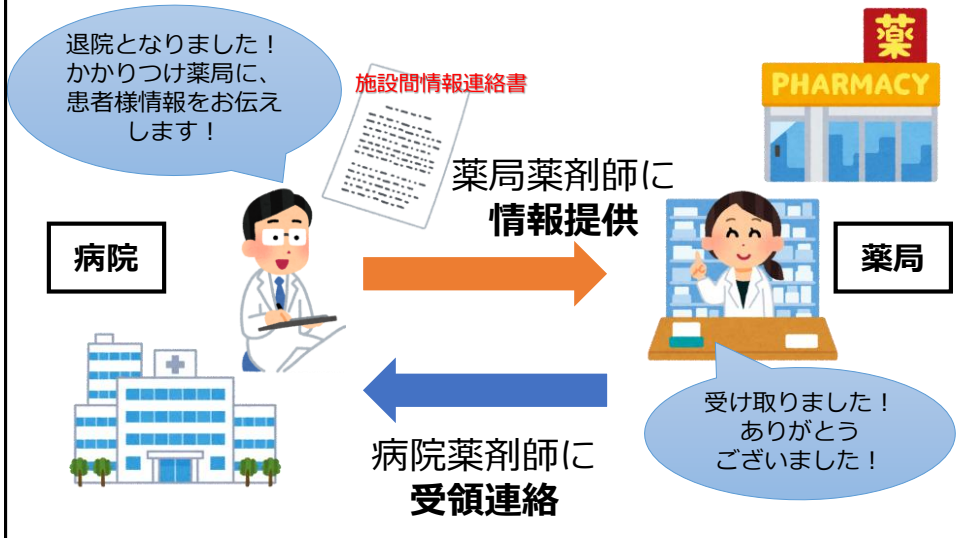
「施設間情報連絡書」の運用

入院時 「薬局薬剤師」から「病院薬剤師」への情報提供



「施設間情報連絡書」の運用

退院時 「病院薬剤師」から「薬局薬剤師」への情報提供



薬薬連携を活発にし、「施設間情報連絡書」を相互にやり取りできるシステムの構築にご協力よろしく申し上げます。

今後、目指す「薬剤適正使用のための施設間情報連絡書」の発行→受領の流れ

